

● 経済用語・データのいみ ●

「サブスクリプション(サブスク)」

去る7月1日、トヨタ自動車は東京地区でトライアル実施していた愛車サブスクリプションサービス「KINTO ONE」の全国展開を開始しました。最近よく聞く「サブスクリプション(サブスク)」とは何でしょうか？

1. 「サブスクリプション」とは？

サブスクリプションを辞書で引くと「定期購読」「予約購読」などの意味が出てきます。そもそもは新聞や雑誌を1年間などを定期的に購読することを意味します。今日では様々な商品やサービスを定期的に提供するビジネスが出現していますが、商品やサービス単位ではなく、それらを一定期間利用できる「権利」に対して代金を支払うビジネスモデルを「サブスクリプション」というようになりました。従来はCD-ROMなどを購入してインストールしていたパソコン用ソフトも、マイクロソフト社の「Office365」など、「SaaS(Software as a Service)」と呼ばれるインターネット経由で提供者のサーバーにアクセスし使用する、クラウド型サービスが増加しています。

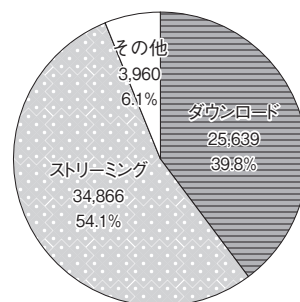
最近では、サブスクリプションを「定額制」という意味で使用することも多くなっています。冒頭のKINTO ONEは毎月定額支払いでトヨタ車に乗ることができるサービスですが、月定額で毎日1杯のラーメンを食べることができる、有名ブランドの高級バッグを自由に使える、平日に毎日1杯ビールが飲めるなど、様々なサービスが出現しています。

2. サブスクリプションはなぜ拡大する？

音楽を聴く方法として、かつてはレコードやCDなどを購入することが主でしたが、2000年頃からデータをダウンロードしパソコンや携帯電話などに保存する方法が出現しました。支払いはアルバム単位などですが、CD版より安価な場合が主でした。つづいて、音楽データをパソコンに保存せずにダウンロードしながら再生する定額制の「ストリーミング」が2010年前後から人気を集め、2018年には金額ベースでダウンロードを初めて上回りました(図表1)。

価値観の多様化が進み、モノを所有せずに「使用する」ことに重点を置く考え方が若年層を中心に広まっています。サブスクリプションは、例えば「音楽を聴く」という利用者の欲求を、より安価に充足することが可能となります。また事業者側ではCDなどのモノを作るコストや在庫管理等が不要となります。ラーメンやバッグなど物理的なモノを取り扱う場合でも、定額制とすることで一定の売上確保が期待でき、顧客の囲い込み・データ収集に有効であるなどの利点があり、サブスクリプションサービスは今後も拡大していくと思われます。一方、事業者がサービスを継続していくためには相応の利用者数の確保や、常に新しいコンテンツを供給し顧客をつなぎとめていくことが必要となります。最近「スマホ決済」の新規参入が相次いでおり、いずれは淘汰が起きるといわれています。サブスクリプションサービスにおいても、生き残りをかけて、より緻密な戦略策定が求められていくのではないのでしょうか。

図表1 2018年種類別の音楽配信金額
(単位：百万円)



一般社団法人日本レコード協会
「日本のレコード産業2019」より

閑話ひとつ

- ▶ 皆さんは、「子ども食堂」をご存知ですか？「子ども食堂」とは、地域や自治体が主体となって無料または低料金で子どもたちに食事を提供する食堂を指します。「NPO法人全国子ども食堂支援センターむすびえ」の調査によると、2012年に東京都大田区で始まった子ども食堂は、2019年6月時点で全国3,718カ所に広がり、1年間で1,500カ所ほど増えています。そして、利用している子供たちの半数以上はひとり親世帯などの貧困世帯とみられています。
- ▶ 一方、同じ2012年に発足した第2次安倍政権下の景気拡大期は、経済政策「アベノミクス」を背景に戦後最長となった可能性があります。経済成長の裏側で、貧困世帯数は急速に増えているのです。
- ▶ 今年10月から実施予定の消費税率引き上げは、低所得層ほど負担が重くなると言われています。今後の経済政策は、最終的な経済成長率だけにとらわれることなく、貧困世帯を下支えする社会保障制度の拡充など、複眼的な見地に立った立案が待ち望まれます。(KW)